



# はは歯クラブだより



NO.36

長崎市鳴見台小学校  
学校歯科医 行成 哲弘



医療法人

ゆきなり小児・矯正歯科

こんにちは！

今回は、フッ素について9回目で

「フッ素の利用はいつから始まったのでしょうか。」

20世紀のはじめ、アメリカのマッケイという歯医者さんが、コロラド州の人たちにむし歯が少ないことに気づきました。そして、研究の結果、その原因が飲み水の中のフッ素であること、フッ素が適量（約1ppm\*）含まれているとむし歯予防に効果があることがわかりました。この発見を利用して、1945年にアメリカで水道水の中のフッ素が適量になるように調整すること（水道水フロリデーション）が始まりました。

そして、今では水道水フロリデーションは世界各国に広まっています。

しかし日本では、過去に京都市、三重県朝日町、沖縄本島で水道水のフッ素化が行なわれましたが現在は行なわれていません。



一般にはフッ素液でブクブクうがい（フッ素洗口）、フッ素入り歯磨き剤、フッ素を歯に塗る（フッ素塗布）などがおこなわれていますが、これらもフッ素が適量あるとむし歯予防に効果があるという発見をもとに工夫された方法です

\*百万分の1の単位です。

（日本小児歯科学会認定小児歯科専門医 行成哲弘）

詳しくは、ホームページをご覧ください。

『ゆきなり』で検索すると簡単です。